さんにち NIE ワークシート

山梨日日新聞

年　　組　名前：

問1

災害時の情報を自動翻訳（ほんやく）する（ある言語をほかの言語に訳す）システムの開発によって、どのようなことが可能になるのですか。

……

……

……

……

問2

自動翻訳システムはⒶ、Ⓑ、Ⓒなど合わせてⒹカ国語に対応しています。
Ⓐ～Ⓓに入る言葉、数字は何ですか。

Ⓐ「　　」

Ⓑ「　　」

Ⓒ「　　」

Ⓓ「　　」

災害情報 AIが自動翻訳

守る命

山梨大などシステム開発

山梨大とソフトウエア販売「スマートカルチャーゲートウェイ」（東京）は、防災用語を学習させた人工知能（AI）を使い自動翻訳システムを開発した。従来の自動翻訳機は防災に関する専門用語を適切に訳すことができなかったが、約2千語を学習させて正確な翻訳を可能にしたという。避難所や宿泊施設での活用を想定しており、同社は「外国人に災害情報を正確に発信でき、安全確保につながる」としている。

山梨大などによると、開発したシステムは「スマリンガルミーティング」。英語、中国語、スペイン語など16カ国語に対応している。システムを導入した端末に日本語や外国語の音声を読み込ませれば、自動的に指定した言語に訳して画面上に表示し、音声で読み上げる。

同社などによると、従来の自動翻訳機は「地盤沈下」や「液状化」など防災に関する専門用語を正確に訳せなかった。「避難」「地震」などの用語もそれぞれ「非難」「自信」などの意味で誤って訳すこともあったが、開発したシステムは前後の文章から正確に翻訳できるという。山梨大地域防災・マネジメント研究センター長の鈴木猛康教授が専門用語を選定した。

鈴木教授によると、外国人が滞在するホテルや避難所に通訳がいるとは限らず、災害時に情報を入手しにくいことが課題だった。このシステムを使えば、外国人とスムーズにコミュニケーションを取ることができ、迅速な避難や安全確保につながることが期待されるという。同社は今後、市町村や外国人が宿泊するホテルなどにシステムの導入を呼び掛ける方針。

同社などは14日、山梨大で留学生を対象とした防災教室でシステムのデモンストレーションを実施。学生は各自のスマートフォンからシステムにアクセスし、それぞれの母国語で災害時の注意点などを確認していた。

中国人留学生の魯小玲（ろしょうれい）さん(26)は「日本語から中国語にスムーズに訳され、内容が十分に理解できた。災害時に円滑なコミュニケーションを取ることができ、便利だと思う」と話していた。〈山本昂輝〉

（2021 年 12 月 15 日付 山梨日日新聞 1 面）

問3

自動翻訳システムは、災害時だけでなく、どんな時に便利だと思いますか。いくつか挙げてください。

……

……

……

……

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します
Copyright © 2021 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.